

FLUKE®

Biomedical

TNT 12000 *X-Ray Test Device*

クイック・リファレンス・ガイド

概要

TNT 12000は、特にX線システムの出力測定および分析ルーチンにおいて、生産性を向上し、エラーを低減するための高速セットアップおよび使用を目的として設計されています。

TNT 12000システムは、ワイヤレス検出器と付属のハンドヘルド・ディスプレイで構成されています。測定値はすべて、1回の露光直後に表示されます。



Fct201.eps

PN TNT12QRG (Japanese)

April 2008, Rev. 2

© 2008 Fluke Corporation, All rights reserved. Printed in U.S.A.

All product names are trademarks of their respective companies.

TNT 12000WDシステムは、ワイヤレス検出器で構成され、ラップトップ・コンピュータをディスプレイとして使用します（コンピュータは付属していません）。

TNT 12000とTNT 12000WDの両方がワイヤレスZigBee™通信プロトコルを使用して、検出器と、ディスプレイまたはラップトップとの間の通信を行います。

TNT 12000の1列のソリッドステート・センサが、X線写真、X線透視、マンモグラム、および歯科用の診断用X線の範囲全体について、電圧（kV）、線量、線量率、半価層（HVL）、および露光時間を測定します。

測定値はすべて、各露光後に表示されるので、各露光前に値を選択する必要はありません。この機能により、測定手順の典型的なステップが不要になります。

測定値は、TNT 12000 Excelアドイン・ソフトウェア（付属）を使用して、アーカイブや以降の分析用に記録できます。

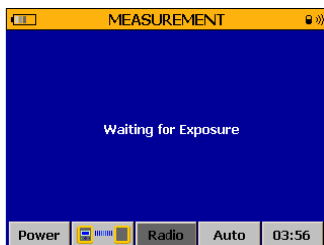
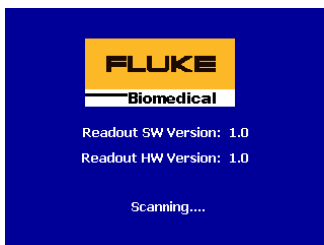
TNT 12000 Ansur試験自動化ソフトウェア（オプション）を使用して試験ルーチンを自動化し、連続試験を行い、結果の確度を確保することもできます。

測定

測定方法は簡単です。キャリア・ケースから装置を取り出したら、検出器とディスプレイを2つ折りの保管状態から分離します。

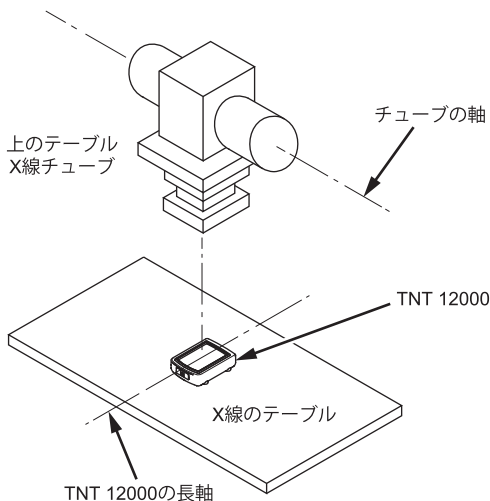
ステップ1:

検出器とディスプレイの両方の電源をオンにします。ディスプレイが対応する検出器をスキャンし、ワイヤレス接続を確立します。

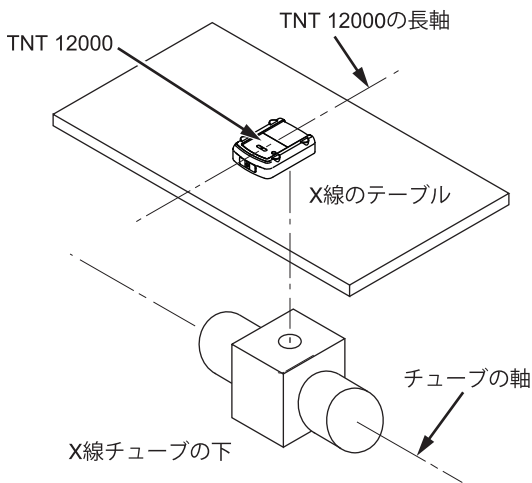


ステップ2:

接続が確立されたら、露光画面が表示されるまで待ちます。検出器をX線測定位置に配置し、露光します。測定値がすべて表示されます。



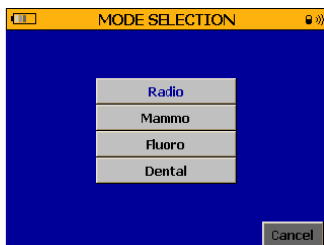
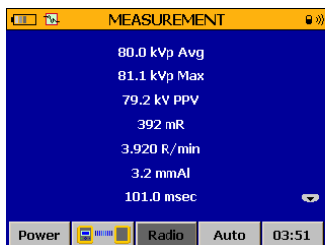
fii05.eps



fii06.eps

注記

X線写真 (Radio) など、測定の種類が直前の測定と同じ場合は、電源の投入時に装置が自動的に設定されます。これは、TNT 12000のデフォルト設定が直前の使用状態だからです。Mammoなど、異なるX線システムの動作モードで測定する場合は、矢印キーを使用して現在のモード (Radio) を反転表示して、Enterキーを押します。モード選択画面が表示されます。所望のモード (Mammo) を反転表示して、Enterキーを押します。前述のステップ2の操作を行います。



Fct101.bmp

このクイック・スタート・ガイドは、TNT 12000の操作の単純さを示し、システムの基本機能を紹介することを目的としています。ユーザー・マニュアル (CD) を熟読して、TNT 12000の機能全体を理解することをお勧めします。ユーザー・マニュアルには、TNT 12000 Excelアドイン・ソフトウェアの操作手順、および新しいTNT 12000についてその他多くの有益な情報の参照先があります。